

令和 4 年 5 月 20 日現在

機関番号：12604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K02358

研究課題名(和文)授業の質向上のためのリズムを生み出す教師の言動に関するマルチモーダル分析

研究課題名(英文) A Multimodal Analysis of Teachers' Behavior to Generate Rhythms for Improving Classroom Quality

研究代表者

山田 雅彦 (YAMADA, Masahiko)

東京学芸大学・教育学部・教授

研究者番号：30254444

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 800,000円

研究成果の概要(和文)：主発問の音読や挨拶など、児童・生徒によるユニゾンの特徴について、アルフレッド・シュッツの理論を手がかりとして考察した。ユニゾンは学習規律であるだけでなく、半ば意図的な調整によって達成されるものでもあることが示された。並行して大学生による模擬授業を分析し、ユニゾンで採用される方略等について以下の3点を指摘した。(1) ユニゾン参加者は複数の方略を採用している。(2) その方略の中には両立不能なものが含まれているが、どの方略を採用するか瞬時に決定される。(3) 教師の指示はユニゾンを達成する手がかりとして活用されることもあり、ユニゾン達成を阻害しかねない時には無視されることもある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

慣習として学校に定着している一方忌避する教師も多いユニゾンについて、積極的な教育効果の存在を明らかにし、教師の指示のあり方によってその効果が影響されることを指摘した。これにより、児童・生徒相互間の人間関係の調整を可能にするユニゾンと、観客(来賓)に誇示するためのユニゾンを区別して前者を残す可能性が高まった。

研究成果の概要(英文)：I examined the characteristics of unison by students, such as greetings and reading aloud of the main question, were discussed with reference to Alfred Schutz's theory. It was shown that unison is not only a learning discipline but also something achieved through semi-intentional coordination.

In parallel, I analyzed micro teachings by university students and pointed out the strategies employed in unison as follows; (1) Unison participants adopt multiple strategies. (2) Some of the strategies are irreconcilable, but the decision on which strategy to adopt is made instantaneously. (3) Teachers' instructions are sometimes used as clues to achieve unison, and sometimes ignored when they may hinder the achievement of unison.

研究分野：教育方法学

キーワード：ユニゾン マルチモーダル分析 アルフレッド・シュッツ 模擬授業 学習規律

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は過去に、課題非従事行動に対処する教師の行動の成否を分けるのが、「ここしかない」というタイミングをのがさない一種のリズム感であると指摘し、授業のリズムに注目する着想に至った。準備を進める過程で、よい授業には学習の「山場」を持つリズムがあるとも指摘されるようにリズムは授業を評価する際の観点の一つであること、にもかかわらず授業のリズムはもっぱら観察者の印象によって語られ、リズムのあり方、特にリズムが生まれる過程への教師の関与については研究がなされてこなかったことを知った。

本研究は、よい授業の条件の一つであるとされる「リズム」を教師の動作によって生み出されるものと見なす立場から、教師の動作が児童・生徒の活動を授業場面にふさわしいものへと誘導してゆく場面でおこるできごとの解明を意図して計画された。

2. 研究の目的

授業を観察してデータを収集するため複数の学校に協力を打診したが、本研究で必要となる複数の撮影機器を持ち込んでの録画・録音は、児童・生徒とその保護者の了解を得る手続きの煩雑さや教材内容への集中を妨げる恐れなど、解決すべき課題が多く協力者を得られなかった。そこで、大学生による模擬授業を分析の対象として計画を修正した。データの収集が容易である上に、模擬授業参加者が頻繁に入れ替わるため、小中学校の学級のように特定のリズムが定着する以前の、今ここでリズムが生み出される場面を録画・録音できるからである。模擬授業の過程に全員を巻き込むようなリズムが生まれる場面を見だし、そこに教師役・児童役それぞれの学生がどのように関与しているかを追究することを目的とした。

3. 研究の方法

大学生による模擬授業を参加者の了解を得て録画・録音し、客観的に把握しやすいリズムとしてユニゾンに着目して分析を進めた。ここでいうユニゾンとは、板書の音読や挨拶などで、複数の人が一つの声に聞こえるほどにそろえて発話することを指す。主に会話記録を参照し、口調や表情、仕草などを補助的に参照することで、ユニゾンを達成する過程での教師役児童役それぞれの学生の相互作用を分析し、瞬間的で微細な相互作用の過程を追究した。

並行して、ユニゾンが時代錯誤の学習規律と見なされかねない状況に鑑みて、ユニゾンの教育的価値を理論的に明らかにすることとした。ユニゾンが初歩的なアカペラコーラスと似ていることに注目し、音楽の共同演奏過程を原初的なコミュニケーションの典型例として考察したアルフレッド・シュッツの理論を手がかりとして、ユニゾンの過程でユニゾン参加者が行っていることを追究した。

4. 研究成果

理論研究の結果、ユニゾンは教師の要求に迅速に対応する訓練としての学習規律であるだけでなく、児童相互の半ば意図的な調整によってその都度達成される「ミニマムな集団行動」でもあることが示された。実証研究の結果、ユニゾンの過程における半意図的な調整で採用されている方略等について以下の3点を指摘した。(1)ユニゾンを達成するために参加者は複数の方略を採用している。できるだけ短い語句や定型句によるユニゾン、文末の長音と声量を下げること、

直前の語句や韻律の採用である。(2)これらの方略の中には、できるだけ短い語句によるユニゾンと直前のより長い語句を採用したユニゾンのように両立不能なものが含まれているが、児童はどの方略を採用するか、打ち合わせなしに瞬時に意思決定を行っていた。(3)児童は教師の指示を、ユニゾンを達成する手がかりとして活用することがある一方、ユニゾン達成の妨げになりそうな場面ではその指示に従わないこともあった。教師の指示に従う意思と児童間の相互調整はユニゾンの達成過程としては不可分であり、相互調整が指示に優先することもある。

一連の成果により、慣習として学校に定着している一方忌避する教師も多いユニゾンについて、積極的な教育効果の存在を明らかにし、教師の指示のあり方によってその効果が影響されることを指摘した。これにより、児童・生徒相互間の人間関係の調整を可能にするユニゾンと、観客(来賓)に誇示するためのユニゾンを区別して前者を残す可能性が高まった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 山田雅彦	4. 巻 124
2. 論文標題 「振動による接触」としてのユニゾン アルフレッド・シュッツの「我々関係」を手がかりに	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育哲学研究	6. 最初と最後の頁 152-170
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 山田雅彦
2. 発表標題 「声をそるえる」ことの学級経営的意義 A.シュッツの「我々関係」を手がかりに
3. 学会等名 日本学校教育学会 第34回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山田雅彦
2. 発表標題 多人数会話における意図的なユニゾンの特徴 大学生による模擬授業に即して
3. 学会等名 第44回社会言語科学会研究大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------